

令和3年度教育課程研究指定校事業実施計画書
— 研究課題 1 高等学校 —

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道
-------------	---	------------	-----

公立 国立 (○で囲む)

1 研究指定校の概要

ふりがな 学 校 名	ほっかいどうななえこうとうがっこう 北 海 道 七 飯 高 等 学 校					校長氏名	たけうち たく 竹 内 琢
所 在 地	〒041-1112 北海道亀田郡七飯町鳴川5丁目13番1号 電話 0138-65-5093 FAX 0138-65-7026 e-mail nanae-z0@hokkaido-c.ed.jp						
設置する課程 (R3.4.1 見込)	全日制課程					(R3.4.1 見込。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む) 教員数 23名	
生 徒 数 (R3.4.1 見込)						[調査研究にかかわる教科等の教員数] 7名	
学 科 名	1 年	2 年	3 年	4 年	計		
普通科	107	112	116		335		
特記事項							

2 研究主題等

教科等名	国語①（国語総合・1年）	教科課題番号等	1
学校における研究主題	実社会で必要な「話すこと・聞くこと」で育成する言語能力を身に付けるための学習指導及び学習評価の在り方に関する研究		

3 令和2年度の成果と課題（○成果●課題）

○本校で育成を目指す「話すこと・聞くこと」の資質・能力を明確にすることができた。
○育成を目指す資質・能力を身に付けさせるための指導計画の内容について、教員間の共通理解を深めることができ、次年度の研究に向けた方向性を明確にすることができた。
○新学習指導要領における国語科の趣旨及び要点の一つである、『話すこと・聞くこと』及び『書くこと』に関する指導の改善・充実について理解を深めることができ、新科目「現代の国語」における指導事項を踏まえた単元構想に着手することができた。
●年間指導計画において、「話すこと・聞くこと」の資質・能力を育成するための単元を明確に位置付けることができなかった。
●総合的な探究の時間との連関を機能させるため、国語科が、本校で育成を目指す「話すこと・聞くこと」の資質・能力の基礎を育成するキーステーションとしての役割を果たす必要があることから、校内体制を強化する必要がある。
●「話すこと・聞くこと」の単元における学習評価の研究に着手することができなかったため、次年度は指導と評価に係る研究を一体的に進める必要がある。

4 令和3年度の研究計画

(1) 本年度の研究の重点等

学校として育成を目指す「話すこと・聞くこと」の資質・能力を「自ら思考し、表現する（話す・聞く）言語の力～相手を意識した言葉のキャッチボールができる力～」と定め、その資質・能力を国語科の授業と総合的な探究の時間を軸に学校全体で育成するために、以下の研究を行う。
1 「話すこと・聞くこと」の単元の指導についての研究
・「話すこと・聞くこと」の領域に係る3つの単元、①落語を聞こう（聞くこと）、②プレゼンテーション（話すこと）、③ディベートをしよう（話し合うこと）を系統的に指導する方法について研究を進める。

・総合的な探究の時間等とのつながりを意識して、「話すこと・聞くこと」の領域に係る3つの単元で育成した言語能力を実社会・実生活に生きて働く言語能力へと高めるための指導方法について研究を進める。 ・学習評価の補完的な役割として実施する、ルーブリックを活用した自己評価や相互評価を積極的に取り入れ、生徒が学びの見通しを持ち成長を実感できるような学習活動の工夫について研究を進める。
2 「話すこと・聞くこと」の単元における学習評価の研究 ・指導事項をもとに設定した評価規準の提示の仕方を工夫するなど、実施するパフォーマンス評価の妥当性・信頼性を高めるための方法について研究を進める。

(2) 研究準備（記入する内容がある場合のみ）

実施期間	取組の計画	期待される効果
4～5月	(1) 現状把握及び課題の検証（診断的評価） ・本校生徒が身に付けるべき資質・能力の再確認 ・基礎力診断テストを活用した「聞く」能力の把握、本校独自のコミュニケーションに関する意識調査（アンケート）の把握	○本校生徒の課題の明確化

(3) 研究計画

実施時期	研究内容，研究方法，成果の公開等	期待される成果等
6～9月	(1) 授業の工夫・改善 ・「相手を意識した言葉のキャッチボールができる力」を身に付けるための効果的な言語活動の設定，適切な教材の開発 ・3つの単元で育成した言語能力と総合的な探究の時間等とのつながりを可視化するための「単元配列表」の作成 ・生徒による自己評価（学習の振り返り），相互評価の工夫 (2) 評価方法の工夫・改善 ・指導事項に本校の生徒の実態を加味した評価規準（ルーブリック）の作成，生徒への提示方法の決定 ・単元前後の生徒の変容の把握	○課題に対する具体的方策の実施とその内容の共有 ○検証を踏まえた新たな課題の共有及び明確化
10～3月	(3) 現状把握及び課題の検証（形成的評価） ・研究推進委員会及び教科部会による課題把握 ・外部講師の検証による研究推進の課題把握 (4) 授業の工夫・改善 ・「相手を意識した言葉のキャッチボールができる力」を身に付けるための効果的な言語活動の設定，適切な教材の開発 ・3つの単元で育成した言語能力と総合的な探究の時間等とのつながりを可視化するための「単元配列表」の検証・改善 ・生徒による自己評価（学習の振り返り），相互評価の工夫 (5) 評価方法の工夫・改善 ・指導事項に本校の生徒の実態を加味した評価規準（ルーブリック）の作成，生徒への提示方法の検証・改善 ・単元前後の生徒の変容の把握 (6) 研究の検証（総括的評価） ・文部科学省視学官（教科調査官）及び管内の教員を招いての研究授業 ・基礎力診断テストを活用した「聞く」能力の高まりの把握，本校独自のコミュニケーションに関する意識調査（アンケート）の変容の把握 ・校内研修での研究成果の報告及び協議 (7) 研究成果の発信 ・研究成果発表会を活用した研究成果の発信 ・研究成果報告書の作成による成果の検証・評価及び成果の発信と普及 ・学校ホームページへの研究成果報告書の掲載	○本校生徒の課題の明確化 ○授業改善の成果と課題の明確化 ○評価の改善の成果と課題の明確化 ○検証を踏まえ，研究指定期間終了後の取組に向けた課題の明確化 ○本校の特色ある取組及び研究成果の発信

5 研究のまとめの見通し

○研究のまとめの方向性

- (1) 「話すこと・聞くこと」の領域に係る単元を系統的に指導することにより，育成を目指す言語能力を高めることができる。
- (2) 国語科において育成した言語能力が，総合的な探究の時間等において発揮されることで，実社会・実生活に生きて働く言語能力へと高めることができる。
- (3) ルーブリックを活用した自己評価や相互評価を効果的に取り入れることにより，生徒に学びの見通しを持たせ成長を実感させることができる。
- (4) 指導事項をもとに設定した評価規準の提示の仕方を工夫することなどにより，評価の妥当性・信頼性を高めることができる。

○研究成果の検証方法

- (1) 基礎力診断テストや本校独自のコミュニケーションに関する意識調査（アンケート）等を実施し，生徒集団の全体的な変容を把握する。
- (2) 特定のグループ等に焦点化して学習状況等の把握に努め，個の変容を把握する。特に，研究の初期と終期における特定のグループ等の話合いの様子を記録し，生徒の変容を分析する。

6 研究実績

特になし